

サトイモ・ヤツガシラ（露地）（黒ボク土）

〔土壤肥料〕

本作目は、栄養生長から生殖生長に不完全ではあるが転換する型である。窒素をはじめ養分吸収パターンは山型を示し、収穫後の土壤中残存養分は比較的強く制御できる。ただし、カリについては、生育後半まで供給する必要がある。

土壤の種類に対する適応性は広く、とくに火山灰土壌は適地といえる。ただし、水分要求度が高く、乾燥には弱い。そのため、有機質資材の施用により土壤の保水力を高めることは重要である。

〔病害虫・雑草防除〕

無病の種イモを利用する。病害虫の早期発見、適期防除を行い、機械除草等により、化学農薬使用を低減する。

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材 施用技術	<p>土壤診断に基づいた低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で、窒素、カリ含量が1%以下の完熟したもの)の施用を基本とする。 肥料成分含量の高い畜産系堆肥の施用にあたっては長期的な視点にたった投入量管理を行う。 緑肥作物を利用する。</p>	<p>堆肥 1~2t/10a</p>
化学肥料 低減技術	<p>基肥は局所施肥(条施肥など)するとともに、窒素、カリについては追肥型の施肥法をとることを基本とする。 肥効調節型肥料と速効性肥料とを組み合わせ、養分吸収特性に対応した施肥成分の供給を行う。 有機質肥料による施肥を行う。</p>	<p>成分量で施肥基準以下 有機質肥料併用の場合には化学肥料低減率20~50%</p>
化学農薬 低減技術	<p>機械により中耕、除草する。 BT剤をローテーション散布に位置づける。 (対象:ハスモンヨトウ) 光反射マルチを利用する。 (対象:アブラムシ類、雑草など) 性フェロモン剤による発生予察・誘殺を行う。 (対象:ハスモンヨトウ) マルチ栽培を行う。 (対象:雑草など)</p>	<p>慣行使用回数の 20%減</p>
その他の 留意事項	<p>盛土などが行われている圃場では、その客入土壌の改良を行う。 過剰施肥、とくにカリが過剰に施用される傾向があるので、適正施肥に留意する。 水田転作など灰色低地土で栽培する場合には、作土深の確保などを図るとともに、優良有機物資材の施用を基本とし、溶脱防止に留意した施肥法をとる必要がある。</p>	